

2020年度 事業計画書

公益社団法人自動車技術会

2020 年度事業計画書の発行にあたって

日頃、公益社団法人自動車技術会の活動をご支援いただきありがとうございます。

弊会では第 8 回理事会（2020 年 1 月 31 日開催）において承認されました“2020 年度事業計画書”を 3 月末に内閣府に提出させていただきました。

しかしながら 2 月末頃より急速に感染が拡大した新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により、「人とくるまのテクノロジー展 2020（横浜/名古屋）」、「2020 年春季大会（学術講演会）」、「キッズエンジニア 2020」、「学生フォーミュラ日本大会 2020」等の事業を中止するとともに、未だ新型コロナウイルス感染症の終息のめどが立たない中、今後も事業計画を見直さざるを得ない状況となっております。

一方で 2020 年度は 2020 年度事業計画書の“事業方針”の通り、モビリティ分野のモーダルシフトや CASE に代表されるような技術の大変革期の中、現在弊会が抱えている課題を解決すべく以下 4 項目を重点におき活動をスタートさせる重要な年と位置付けております。

- ・ 持続性と発展性を持った本会の将来の在り方の検討
- ・ 新しい自動車技術領域の産学連携体制の強化
- ・ 次世代の自動車分野の若手エンジニアの育成
- ・ 人口減少や技術分野の変化による会員減少への対応

このような経緯により、第 10 回定時総会に提示させていただく“2020 年度事業計画書”につきましては、内閣府に提出した資料を基に、新型コロナウイルス感染症の影響による現時点での事業計画内容の変更分を可能な範囲で反映したものとなることをお許しください。

また、昨年度から検討を開始いたしました「会員情報プラットフォーム」の構築、最新の IT 技術を駆使した人材育成施策や技術情報共有事業の強化等、上記の重点 4 項目につきましては予算面では非常に厳しい中ではありますが、内容を吟味しつつ着実に推進していきたいと考えております。

さらには、このコロナ禍のピンチをチャンスに変えるべく、これまでとは違った社会環境の到来に合わせた会議やセミナー、フォーラムでの Web の活用などの運営方法や活動についても、トライしていきたいと考えております。これら事業につきましては、今後理事会等でしっかりと審議しつつ迅速に進めて参りたいと思っておりますので、これまで以上の御支援と御協力を宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、この新型コロナウイルス感染症の一刻も早い終息と皆様のご健康ならびに経済の回復を心よりお祈り申し上げます。

公益社団法人自動車技術会
総務担当理事 葛巻 清吾

2020 年度事業方針

自動車に関する新たな技術領域での取り組みを積極的に進めるとともに、世界に向けた技術情報発信力および国際標準の場での発言力を強化し、日本のプレゼンス向上と世界的影響力向上を目指す。

“2050年チャレンジ”として2018年に策定した「ロードマップ」に見直しを加えつつ、新規事業の立ち上げと既存事業の進化を着実に推進する。

特に、CASE や MaaS に代表される新たな技術への取り組み、SDGs に端を発した環境意識の向上や少子高齢化に代表される社会構造の変化を反映した新たな課題に対応するため、以下の4項目を重点として展開する。

- ・ 持続性と発展性を持った本会の将来の在り方の検討
- ・ 新しい自動車技術領域の産学連携体制の強化
- ・ 次世代の自動車分野の若手エンジニアの育成
- ・ 人口減少や技術分野の変化による会員減少への対応

このような事業展開に当たっては、引き続きメリハリのある予算編成を行い、喫緊の課題に速やかに対応する。

1. 2020年度事業計画の考え方と基本方針

① 将来技術にフォーカスした研究開発の加速・新しい共創環境の構築を目的とした技術交流の促進

- ・ 普及期を目前に控えた自動運転技術の調査・研究加速に向け、以下の各項を推進する。
- ・ 共同研究センター「自動運転委員会」の技術分野の見直し・再構成をし、技術会議傘下に「自動運転技術部門委員会」を、共同研究センター傘下に「自動運転 HMI 委員会」と「自動運転影響予測委員会」を設立する。
- ・ 新技術領域として「ビークル&グリッド」や「コネクティッド技術」の委員会設立を検討する。
- ・ 学際領域として「モビリティ社会委員会」、「持続可能な自動車社会部門委員会」を設立する。

② 人材育成事業の拡充と推進

- ・ 様々な新技術の開発が加速され、複雑化した開発環境下においては個々の技術者の技術モラル意識が重要となっているため、技術者モラル教育を推進する。
- ・ 地域および新技術を含む分野包括的にエンジニアおよび将来のエンジニアを発掘・育成するため、内外さまざまなステークホルダーと連携しつつ、事業の実効性を高め人材育成のハブ機能と展開力を強化する。
- ・ 自動車技術の裾野の拡大に対応するため、情報通信系や理数学系の技術習得および人材確保に向けた教育プログラム、並びに MBD 開発など新たな分野の教育プログラムを拡充する。
- ・ 自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする教育プログラム（競技）を継続実施する。
- ・ 学生フォーミュラ大会において、日本チームの海外大会への派遣支援を実施し、日本チームの意識改革/レベル向上を図る。また、EV 領域の拡大策やキャリア支援と連動したスポンサー拡大策を検討・実施する。
- ・ 学生活動の更なる推進により学生会員の拡大を図ると共に、業界定着に向けた施策を検討する。学生を対象とした其々の事業は連携を図り、より一貫した事業を目指す。

- ・自動車及び自動車産業に関心を持たせ、職業として認知してもらうことを一つの目標とした、中高生向けの動機づけ体験・教育プログラムを検討する。
 - ・小学生に理科への興味や自動車への関心を育むため、キッズエンジニアの内容を充実させる。ジュニア層に向けた継続的な発信について検討する。
- ③ 最新自動車技術の継続発信と技術者交流の促進
- ・技術者交流の場としての人とくるまのテクノロジー展、シンポジウムならびにフォーラムの更なる活性化に当り、新技術領域との連携に加え、展示会・技術会議・規格会議間の連携を図る。
 - ・人とくるまのテクノロジー展は、新技術領域、注目技術の発表・展示の更なる充実を図るため、横浜・名古屋双方が一体となり発展的拡大を目指す。
- ④ 会員満足度の高い刊行物の継続発刊と論文集事業の強化
- ・英文ジャーナルのインパクトファクター取得に向けた具体的施策を関係会議体と連携して進める。
 - ・2020年度から「より読まれる会誌」として新しい誌面構成となる会誌のその後の効果を検証する（アンケートなど）。
 - ・本会が取り扱う学術文献の活用度を大きく高めるため、出版案内やJSAEライブラリの文献データベースを統合した「JSAE総合文献サイト」（仮）を構築し、ワンストップで会員が文献調査可能な環境を提供し会員サービス拡充に繋げる。
 - ・自動車工学図書のラインナップ充実のための取り組みを継続する。
- ⑤ 国際・国内標準化活動の推進
- ・自動運転技術の標準化では、TC22とTC204が連携する自動運転標準化検討会において、重点標準化領域（自動運転、電動車、情報通信／情報セキュリティ）の作業項目に対して、All Japanとしての活動を推進するとともに、特に2020年以降市場投入される高速道路での高度な自動運転（レベル3以上）の安全性能確認手法、HMI等の技術に関し、日本自動車工業会他、関連省庁／団体（他業界を含む）との連携を密にし、国連WP29標準化活動と連動、協調した標準化活動を行う。
 - ・TC22（自動車）分野では、「第11次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2021年～2025年）」を策定する。また、日本が国際議長・幹事国を務めるTC22/SC32（電子・電装領域）、国際議長を務めるTC22/SC38（モーターサイクル・モペッド）を始めとして、日本が主導するWG（作業グループ）においても、日本の貢献を示しつつ、戦略的かつ積極的に提案、推進する。
 - ・TC204（高度道路交通システム：ITS）分野では、「ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画（2021年）」を策定する。特に日本が議長国であるWG3（ITSデータベース技術）とWG14（走行制御）を中心に、インフラ協調システムの国際標準化活動を戦略的に推進する。
 - ・規格会議ロードマップの実施項目として、自動車分野とITS分野が連携した新たな標準化長期計画の在り方を検討するとともに、超スマートモビリティ社会システムの実現に向けて、技術会議や共同研究センター等との連携による標準化項目抽出等の検討を行う。
 - ・自動車技術展や春季大会フォーラム等を活用し、標準化活動状況や成果を広く紹介することにより、標準化活動への理解促進及び認知度向上を図る。
 - ・欧米との戦略的協調およびアジア地域における国際標準化活動連携を推進する。

⑥ 会員サービスの拡充

- ・新入会促進及び既存会員の満足度向上施策を検討する。
- ・既存会員のニーズに応えるよう、会員情報システム「マイページ」の改修および各種イベント申込み等関連システムとの連携の検討を進める。

2. 予算編成の基本方針

- ・公益法人に求められる財務3要件である、① 収支相償、② 公益目的事業比率50%以上、③ 遊休財産額の保有制限に対する率100%以内を満たす予算を策定する。
- ・新規会員獲得及び既存会員の満足度向上を意識した支出・投資予算を策定する。
- ・ロードマップ実行に向けたメリハリのある予算配分を検討する。

注記：2020年度事業計画書（内閣府提出版）からの変更点は本編内に※印で記載しましたのでご確認下さい。

1 総 会

第10回定時総会を2020年5月21日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項 2019年度決算報告の件、2020-2021年度理事選任の件、2020-2021年度監事選任の件、名誉会員推薦の件

報告事項 2019年度事業報告の件、2020年度事業計画の件、2020年度予算の件

2 役員会

2.1 理事会を5回開催する。

2.2 会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を4回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

3 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、最新の技術課題に取り組み、部門委員会活動に反映するとともに、その活動成果を学術講演会、フォーラム、シンポジウム・講習会および国際会議などを通じて社会に広く情報発信し、自動車技術の更なる進歩向上に寄与する。

共同研究センターでは、産学官連携事業、他学協会との連携事業、受託事業を推進し、研究・技術に対する提言を行う。

技術会議運営検討委員会と共同研究センター運営委員会が連携し、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行う。

3.1 技術会議

(1) 技術会議

技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

(2) 部門委員会・特設委員会

「自動運転技術部門委員会」および学際領域系の「モビリティ社会部門委員会」、「持続可能な自動車社会部門委員会」を新たに加えた48部門委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

- ① ※ ~~2020年春季大会において、オーガナイズドセッション、ならびにフォーラムを開催する。~~
→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止
- ② ※ ~~2020年名古屋展示会において、フォーラムを開催する。~~
→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止
- ③ シンポジウム・講習会を開催する。
- ④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載、ならびに技術報告書の発行他を行う。

(3) 学術講演会運営委員会

春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

(4) 国際会議等への対応

下記委員会組織により 2020 年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

<主催>

① ※ AVEC20 (2020 年 9 月 14 日～18 日 神奈川工科大学 神奈川)

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により 2020 年に延期

AVEC: International Symposium on Advanced Vehicle Control

(5) 他学協会との連携

① 自動車用材料共同調査研究会 (材料部門委員会と日本鉄鋼協会)

② 自動車制御とモデル委員会と計測自動制御学会との連携

③ マルチマテリアル構造設計技術調査委員会 (構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合)

3.2 共同研究センター

(1) 委員会

自動運転系の 2 委員会を新たに加えた下記 5 委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

① 将来の車外騒音検討委員会

② 自動運転に係わる総合信頼性の継続的確保に向けた標準化検討委員会

③ 傷害予測による事故自動通報システムの高度化と普遍化に関する検討委員会

④ 自動運転 HMI 委員会

⑤ 自動運転・影響予測委員会

(2) 他学協会との連携

2020 年度は無

3.3 研究調査事業

技術会議の 1 委員会が 1 テーマで実施 (総額予算 800 千円)

3.4 受託事業

技術会議及び共同研究センター傘下の委員会により以下を実施する。

(1) SAE World Congress 等海外における PM 研究動向の最新研究調査

(大気環境技術・評価部門委員会/受託先: 日本自動車工業会)

(2) 今後の車外騒音規制のあり方に関する調査 (将来の車外騒音検討委員会/受託先: 環境省)

PM: Particulate Matter

4 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

春季及び秋季大会は、学術講演会を中心に多くの技術者の交流の場とする。「人とくるまのテクノロジー展」は5月春季大会時の横浜、並びに7月名古屋の年2回の開催とする。

4.1 ※ 春季大会

~~2020年5月20日(水)～22日(金)にパシフィコ横浜(横浜市)で開催する。学術講演会のほか、人とくるまのテクノロジー展2020横浜、Keynote Address、各種フォーラム、JSAE Annual Party(技術者交流会)を開催する。~~

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止

4.2 秋季大会

九州支部の協力を得て、2020年10月21日(水)～23日(金)に北九州国際会議場(北九州市)で開催する。学術講演会、Technical Review、市民公開特別講演、産学ポスターセッション、学生フォーミュラ車両展示、秋季大会パーティ(技術者交流会)を実施する。

4.3 ※ 自動車技術展

① ※ 人とくるまのテクノロジー展2020横浜(2020年5月20日(水)～22日(金))

パシフィコ横浜(横浜市)

~~「新たな自動車技術が支える地域創生—革新的社会インフラと融合した“くるま”進化の方向性」をテーマに講演会・技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。~~

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止

② ※ 人とくるまのテクノロジー展2020名古屋(2020年7月8日(水)～10日(金))

ポートメッセなごや(名古屋市)

~~「新たな自動車技術が支える地域創生—革新的社会インフラと融合した“くるま”進化を生み出す重要技術」をテーマに技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。中部支部企画の講演会を実施する。~~

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止

4.4 シンポジウム・講習会

技術会議及び共同研究センター傘下の各委員会企画により9回開催する。

4.5 国際会議

専門技術分野の国際会議を以下のとおり開催する。

- ・※ 15th International Symposium on Advanced Vehicle Control (AVEC '20)

2020年9月14日～18日 神奈川工科大学(神奈川)

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2020年に延期

5 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号、公益目的事業1・2・3）

自動車に関する学術・産業の振興への寄与のために、各種出版物の刊行によって自動車技術情報を広く会員、および国内外に発信するとともに、編集会議2050年ロードマップの各項目の実現に向けた具体策を継続実施する。

5.1 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行（公1）

(1) 会誌「自動車技術」

- ・より読まれる会誌に向け、記事の多様化と鮮度の高い情報発信のため、特集記事の構成を刷新（*）した会誌を4月より発行する。

（*）具体的には、技術革新・更新頻度が高い3分野（パワートレイン、車体、自動運転&エレクトロニクス）を年各2回特集し、この3分野以外は交互に特集するもの。

- ・海外への技術情報発信の一環として、8月年鑑号英訳版のウェブサイト公開を継続する。

(2) 「自動車技術—文献抄録集—」を毎月発行し、海外文献を中心とした有益な情報を提供する。

(3) 「JSAE エンジンレビュー」を電子版刊行物として継続発行する。

(4) 「日本の自動車規格」の日本語版（DVD）、および英語版（WEB）を発行する。

(5) 第70回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー記事を会誌「自動車技術」に掲載する。

(6) 「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テストングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」を発行する。

(7) 「高翔」（関東支部企画・編集）、「宙舞」（中部支部企画・編集）、「関西支部ニュース」（関西支部企画・編集）を発行する。

5.2 研究発表に関する学術誌の発行（公2）

(1) 「自動車技術会論文集」

- ・J-STAGEにて年6回発行する。

- ・オンライン査読システムにより、投稿から掲載までの期間を短縮しつつ高いクオリティの論文を発信していく。

(2) 「International Journal of Automotive Engineering (IJAE) : 英文ジャーナル」

- ・J-STAGEにて年4回発行する。

- ・2019年度に実施した科学技術振興機構（JST）によるジャーナルコンサルティングの成果を踏まえ、2020年度も引き続きジャーナルの品質向上に取り組む。

- ・Impact Factorの確実な取得を目的とするWGを設置し推進していく。

(3) 春季・秋季大会学術講演会講演予稿集（DVD）、およびフォーラム資料を発行する。

5.3 人材育成に関する学術図書の発行（公3）

(1) シンポジウム及び講習会資料を発行する。

(2) 会誌「自動車技術」において教育的記事を連載する。

(4) 関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」（2回）、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.23」を発行する。

5.4 ※広報関連他の発行

- (1) JSAE メールマガジン（インターネット配信）を週1回発行する。
- (2) 国内への広報活動としてプレスリリースを発行すると共に、ニュースレターJSAE Eye の日英版をそれぞれ年4回発行して国内外への広報に努める。
- (3) 支部だより（北海道支部1回）、行事案内（関西支部7回（内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止））、支部ニュース（中部支部6回）を発行する。

5.5 その他

- (1) 本会の基盤整備を目的とした、自動車技術情報を集約する文献・規格検索サイトの構築を開始する。

6 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

次世代エンジニアの育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア 2020」、中高生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム（学習・コンテスト・進路案内）」、大学生向けに「学生フォーミュラ日本大会 2020」等ものづくり教育の場を提供する。その他、大学生の発表機会として「学生ポスターセッション」を新設する。また、新技術分野の人材発掘、育成のため「第2回自動運転 AI チャレンジ」を6月に開催する。学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者養成に努める。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。

6.1 自動車工学基礎講座

9月に名古屋、10月、11月に広島、2021年3月に東京で開催する。その他、二輪エンジニア向け講座、地方自治体や賛助会員向けの講座も継続開催する。

6.2 自動車工学中級講座

中堅技術者を対象とし、技術者育成委員会及び技術会議傘下部門委員会や共同研究センター下の委員会と共に企画・実施する。

6.3 技術者育成講座

新入会員や学生会員を対象とし、自動車技術会の活動に参加する契機となることを目指した講座を、東京・名古屋において企画・実施する。

6.4 サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座の内容を拡充し、9月に開催する。また、実習型の講座を引き続き開催する。

6.5 自動車開発・製作セミナー各編

学生フォーミュラカーを題材とした各編の自動車開発・製作セミナーを継続開催すると共に、学生にとって有益な情報を配信する。

6.6 支部の講演会・見学会等

- (1) ※北海道支部：講演会3回、見学会1回、市民講座4回（内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止）を開催する。

- (2) ※東北支部 : 見学会2回 (関東支部との共同企画含む) 社会貢献活動として市民講座10回、次世代自動車技術フォーラム2回 (内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、中学生向けマイコンカーラリー1回を開催する。講演会2回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。
- (3) ※関東支部 : 講演・講習会10回 (内2回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、見学会11回 (内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、支部社会活動として公開講座を開催。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。社会貢献活動として第11回群馬県高校生電気自動車大会に参画する。
- (4) ※中部支部 : 見学会14回 (内4回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、技術講習会5回 (内2回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、技術交流会2回 (内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、体験型講習会1回、技術者懇談会3回を開催する。講演会3回、研究発表会1回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。
- (5) ※関西支部 : 見学会6回 (内2回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、講演会2回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催する。
- (6) ※九州支部 : 関西支部との合同例会1回、講演会3回 (内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、見学会1回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止、市民講座3回を開催する。技術者交流会1回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。

6.7 技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベルを認定する。

6.8 ※ 学生フォーミュラ日本大会2020ーものづくり・デザインコンペティションー

~~2020年9月8日(火)～12日(土)の5日間をわたってエコパ(小笠山総合運動公園、静岡県掛川市/袋井市)で開催する。~~

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止

6.9 ※ 自動運転 AI チャレンジ

~~第2回となる自動運転 AI チャレンジを2020年6月14日(日)に開催する。~~

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、6月14日(日)の決勝戦は中止し、代替えとして「オンライン上での決勝戦」に変更する。

6.10 ※ キッズエンジニア2020

~~2020年7月24日(金)～25日(土)にポートメッセなごや(名古屋市)で開催する。~~

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。各企業が提供しているキッズ向けプログラムを本会のサイトでも提供する。

6.11 支部の小学生プログラム

- (1) ※北海道支部：「キッズエンジニア」を3回（内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止）、関東支部と共同開催する「くるま未来体験教室」を1回開催する。
- (2) 東北支部：クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北2020」を2回（支部主催：会場はスリーエム仙台市科学館と福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館とし協力企業と連携）と「自動車の作り方と東北の自動車工場」、「第6回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」、「小学生のための自動車教室」を各1回開催予定。
- (3) ※関東支部：「小学生くるま未来体験教室」を8回開催（うち1回は他支部との共同開催）（内2回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止）
- (4) ※中部支部：「キッズ・モノづくりワンダーランド」を11回開催する。（うち1回はキッズエンジニアに出展）。（内5回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止）
- (5) 関西支部：「キッズエンジニア」を2回開催する。
- (6) ※九州支部：~~キッズエンジニア in 九州を開催~~→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止

6.12 学生活動企画委員会

全国6支部による学自研活動をはじめとする学生活動の連携の他、学生活動全体の推進を行う。大学生の発表機会として「学生ポスターセッション」を新設する。

6.13 学生 Web 活動委員会

学生委員による企業訪問、イベント訪問などの取材活動を行い、ウェブや SNS (Facebook) を用いて学生向け情報発信を行う。

6.14 JSAE ナイトセミナー

平日終業後の情報収集・継続学習機会を提供するため、JSAE ナイトセミナーを継続開催する。中継やネット配信等の技術を活用し、地域、場所の制約を受けない学びの場の提供を行う。

6.15 学生安全技術デザインコンペティション

2021年7月に横浜で開催される世界大会へ日本代表チームを派遣すべく、2021年3月に日本大会（選考大会）を開催する

6.16 中高生等を対象とした「次世代カーデザイン人材育成プログラム」

中高生等を対象として、創造的なカーデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさせる機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び第9回カーデザインコンテストを実施する。（企画：デザイン部門委員会）

6.17 学生自動車研究会（以下学自研）

(1) ※北海道支部

学自研参与会議2回、学自研参与・学生委員合同会議1回開催。学生フォーミュラ日本大会2020 報告会1回開催。夏のドライビングコンテスト1回、若手メカニックとの交流会1回、若手エンジニアとの交流会1回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回開催。学生フォーミュラ日本大会2020に1チーム参加予定、車検講習会1回、合同試走会2回→新型コロナウイルスの感染拡大の

影響により中止。

(2) ※東北支部

支部学自研大会1回、運営委員会3回(内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、学自研参与会2回、第31回手作り自動車省燃費競技大会、第35回自動車整備コンテストを各1回開催。特別講演会1回、見学会1回、~~第39回タイヤ研修会、第30回自動車技術独創アイデアコンテスト1次・2次、技術講習会1回、学生EVフォーミュラ支部試走会4回、模擬機械車検会1回、模擬機械車検会1回、模擬EV車検会1回開催~~第18回全日本学生フォーミュラ日本大会2020へ2チーム参加予定→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。

(3) ※関東支部

支部学自研大会1回、支部学生委員会12回、支部学術研究講演会・特別講演会1回、見学会・講習会等を8回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第18回全日本学生フォーミュラ日本大会2020に参加。並行してフォーミュラ試走会を支部合同で1回、支部単独で3回開催。→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止

(4) ※中部支部

参与会2回、学生委員会5回(内2回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、学生委員会引継会1回、卒業研究発表講演会1回、走行技術トレーニング4回(内3回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、中部支部交流会1回、基礎技術交流会1回、テクニカルセミナー1回、雪上ドライビング講習会1回、ICV・EV比較試走会1回を開催。また、中部支部社会貢献事業への支援を実施する。~~ものづくりセミナー1回、支部合同試走会1回、人とくるまのテクノロジー展2020名古屋(プレゼン、フォーミュラカー展示)1回~~→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。

(5) ※関西支部

参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、キッズエンジニア、安全運転講習会、試乗技術説明会、卒業研究発表会各1回開催。支部学自研ニュース発行2回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を12回開催(内6回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)し、講習会・勉強会計10回(内3回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)、試走会6回開催(内4回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)。学自研入会説明会1回開催→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。

(6) ※九州支部

支部学自研総会1回、研究発表会1回、講演会1回、及び懇親会1回開催。勉強会2回を開催(内1回は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止)。学自研機関紙発行1回。見学会2回、安全運転講習会1回、第18回学生フォーミュラ日本大会2020へ5校がエントリー予定、学生フォーミュラ試走会5回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。

7 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

自動運転・電動車・コネクティッド・MaaS（Mobility as a Service）等に関して、主要各国とも精力的に研究開発をすすめており、技術進化と合わせて国際標準化にも積極的に取り組んでいるため、ISO/TC22（自動車）とISO/TC204（高度道路交通システム）の活動が活発化している。自動車標準化委員会（ISO/TC22）とITS標準化委員会（ISO/TC204）は、各分野において、日本自動車工業会、日本自動車研究所、関連省庁/団体と連携し、日本の優れた技術（自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティ等）の標準化活動を通じて世界への貢献及び普及促進を目指す。特に、自動運転の国際標準化に関して、自動運転標準化検討会において両委員会の連携を図るほか、自動運転標準化研究所（JASIC）において基準と標準の連携を図る。

7.1 自動車標準化委員会及びJIS/JASO規格審議委員会（自動車分野）

「第11次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2021年度～2025年度）」を作成し、自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティ領域の重点テーマについて戦略的な標準化活動を推進する。また、規格会議ロードマップの主要施策を推進するとともに、戦略企画機能、標準化推進機能、外部連携の更なる強化に取り組む。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC22）

- ①日本が国際議長・幹事国を務めるTC22/SC32（電子・電装領域）および国際議長を務めるTC22/SC38（モーターサイクル・モペッド）において我が国の貢献を示しつつ、自動運転・電動車・情報通信/情報セキュリティ領域の重点テーマであるサイバーセキュリティ、ソフトウェア更新、安全性検証シナリオ、性能限界時の機能安全、ドライバモニタリングシステム等の標準化を進める。
- ②規格会議ロードマップの主要施策の実行推進と実施検討を行う。
- ③日本自動車工業会（国際標準検討会・自動運転検討会）、日本自動車研究所（ISO/TC22/SC37）、日本自動車部品工業会等の関係団体との連携強化を図る。
- ④日欧米の交流を継続するとともに、アジア地域の標準化活動を促進させるためにアジア諸国との連携を図る。
- ⑤ISOエキスパート、ISO対応委員会委員などを対象にISO研修会を開催する。

- ⑥ISO等の規格活動への理解促進を図るため、2020年度春季大会で標準化フォーラムの開催、また標準化活動レポートの会誌掲載などによる広報活動を進める。

(2) 国内標準化活動（JIS/JASO）

- ①JASO制定7件・改正3件、テクニカルペーパー制定1件・改正3件、JIS改正7件を行う。
- ②JIS・JASO原案の質の向上を図る為、JIS/JASO原案を作成する委員会委員を対象に規格原案作成講習会を実施する。

7.2 ITS標準化委員会（高度道路交通システム分野）

ITS分野では、国連SDGsに示される社会課題の解決に貢献するため、自動化やコネクティビティの

機能を取り込んだ次世代交通システムの発展と普及に資する自動車・インフラ・ユーザー間のインターフェースや役割分担に着目した規格開発を目指す。

具体的には、下記の通り 2019 年度に策定した「ITS 分野の国際標準化戦略 5 ヶ年計画（2020 年）」並びにスマートモビリティシステムに関する国際標準化（受託）実施計画に沿って、特に日本が議長国である WG3（ITS データベース技術）と WG14（走行制御）において、国際標準化活動を戦略的に推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC204）

- ① 第55回（於欧州）および第56回（於北米）の TC204総会への日本代表団派遣を派遣し、日本の貢献をより高めていく。
- ②TC204/WG14では効率的な国際会議の運営を推進するとともに、SAE（米国自動車技術会）や ETSI（欧州電気通信規格協会）などと連携しつつ、モーターウェイショーファーシステム、自動バレー駐車システム、トラック隊列走行システムなどの日本提案の作業項目や、その他重要な作業項目の策定を推進する。
- ③TC204/WG3では、ダイナミックマップに係わる日本提案の作業項目などを推進する（日本デジタル道路地図協会）。
- ④ 欧米における ITS 分野の産業界の動向に関する情報収集を行い、標準化への影響について分析する。

(2) 国内標準化活動

- ① ITS 標準化委員会・技術委員会について、本会が事務局として活動する。分科会は、本会（WG14）のほか、日本自動車研究所（WG1）、日本デジタル道路地図協会（WG3）、UTMS 協会（WG9、10）、道路新産業開発機構（WG5、7、18、19）、国土技術研究センター（WG8）及び電子情報技術産業協会（WG16、17）が分担して事務局を担当する。
- ②リエゾン関係にある TTC（情報通信技術委員会）及び ARIB（電波産業会）との連携を強化すると共に、ITS Japan や日本自動車工業会などの関係業会団体とも連携する。
- ③インフラ協調システムの規格化においては、当該国内事業者との連携を構築する（例として自動バレー駐車システムにおいては国内駐車場事業者など）。
- ④パンフレット「ITS の標準化 2020」を製作し、標準化活動の普及・啓蒙に活用する。
- ⑤ ITS 分野の国際標準化戦略 5 ヶ年計画（2021年）を策定する
- ⑥ ITS 分野の国際標準化に関する専門家会議を開催する。

8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第5条6号、公益目的事業2)

従来活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

8.1 国内関連機関及び団体との連携

- (1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。
- (2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。
- (3) 経済産業省の日本工業標準調査会（JISC）の自動車他、各技術専門委員会に委員を派遣し積極的に参画する。
- (4) ※ ~~経済産業省と連携し、第2回自動運転AIチャレンジ（2020年6月14日：千葉）を開催する。~~
→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、6月14日（日）の決勝戦は中止し、代替えとして「オンライン上での決勝戦」に変更する。
- (5) 各国国土交通省が2年に一度主催するESV国際会議で開催される「学生安全技術デザインコンペティション」の国際大会への日本代表チームの派遣を見据え、国内大会を実施する。
- (6) 日本機械学会が幹事となり、第31回内燃機関シンポジウムを共催する。
- (7) 日本自動車工業会国際標準検討会、および自動運転検討会と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。
- (8) 日本鉄鋼協会と材料部門委員会が共同設置した「自動車用材料共同調査研究会」の活動を引き続き推進する。
- (9) 自動車制御とモデル委員会と計測自動制御学会の連携活動を引き続き推進する。
- (10) 構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合（ISMA）の連携活動を引き続き推進する。

8.2 国外関連機関及び団体との連携

- (1) ※ ~~2020年9月に開催する学生フォーミュラ日本大会2020—ものづくり・デザインコンペティション—に、アジアなど海外からの参加を得る。~~
→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止
- (2) ※ ~~学生フォーミュラ日本大会2020の機会を利用して各国との交流促進を図る。~~
→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止
- (3) 中国自動車工程学会年会におけるフォーラム開催など、中国自動車工程学会（SAE-China）との連携を推進する。
- (4) 韓国自動車工学会年会におけるフォーラム開催など、韓国自動車工学会（KSAE）との連携を推進する。
- (5) FISITAの執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。
- (6) FISITA World Congress 2020（2020年9月14日～18日、プラハ）の開催に協力する。
- (7) APAC-21（2021年3月予定、メルボルン）の開催に協力する。
- (8) APAC Members Meetingなどの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。

(9) SETC 2020 (2020年11月10日～12日、ミネアポリス) を SAE International と共催する。

(10) ※ AVEC' 20 (2020年9月14日～18日、神奈川) を神奈川工科大学と共催する。

→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により 2020 年に延期

(11) 欧州、米国やアジア諸国の主要な標準化団体との連携を促進する。

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference

AVEC: International Symposium on Advanced Vehicle Control

9 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 5 条 7 号、公益目的事業 3)

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

9.1 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

- (1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。
- (2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。
- (3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。
- (4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。
- (5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に授与する。
- (6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (7) ITS 標準化活動功労感謝状：ITS 標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (8) 編集・出版功績感謝状：本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (9) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (10) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。

9.2 学生対象の業績表彰

- (1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。
- (2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。
- (3) 優秀ポスターセッション賞：秋季大会の産学ポスターセッションにおいて優秀なポスター発表を行った研究室を表彰する。
- (4) 学生ポスターセッション賞：春季大会の学生ポスターセッションにおいて優秀なポスター発表を行った学生個人を表彰する。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(定款第5条8号)

公益法人として会務運営について厳格に関係法令を遵守し、また社会倫理に適合した公正で誠実な活動を推進する。

本会の各ステークホルダに対する利便性の向上と各事業活動の広報拡大を目指し、既存の各種システムを統合した「JSAE 総合文献サイト」を構築する。

既存会員の満足度向上、及び従来の自動車産業の枠組みを越えた技術領域の技術者などの新たな会員層を取り込むため、会員サービスの拡充を推進する。

- 10.1 法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い、今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。
- 10.2 公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③遊休財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。
- 10.3 「2050年チャレンジ」に掲げた新規事業を実行に移していく。
- 10.4 「JSAE 総合文献サイト」を構築し、本会の文献・規格・イベント情報をまとめて検索できるようにすることにより、ユーザ利便性の向上ならびに本会事業活動の広報拡大を狙う。
- 10.5 「総務委員会 会員対策タスクフォース」を設置し、会員の増強、新規会員サービスの施策として「会員情報プラットフォーム」を構築する。
- 10.6 支部総会・役員会
 - (1) ※北海道支部 : 支部通常総会1回、支部理事会2回を開催する。特別講演会1回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。
 - (2) ※東北支部 : 支部通常総会1回(新型コロナウイルスの感染拡大の影響により書面審議)、支部理事会3回、学自研参与会2回を開催する。特別講演会2回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。
 - (3) 関東支部 : 支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回(内、顧問同席2回)、担当理事会30回を開催する。
 - (4) ※中部支部 : 支部通常総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会を開催する。顧問会1回→新型コロナウイルスの感染拡大の影響により中止。
 - (5) 関西支部 : 通常総会1回、理事会2回、合同会議1回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回を開催する。会員増強のため、会員・魅力拡大会議3回を開催する。
 - (6) 九州支部 : 支部定時総会1回、理事会2回、常任理事会4回を開催する。

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業